

9月の薬草園

【開花中の植物】



✿クワンソウ (ユリ科)
(アキノワスレグサ) 沖縄の伝統野菜のひとつ。花はてんぷらやおひたしなどに。蕾は中華料理で「金針菜」としておなじみの野菜です。



✿コガネバナ (シソ科)
生薬：黄芩(オウゴン)
皮を剥いだ乾燥根。花は青紫なのに黄金花といわれるのは根の断面が黄色いことからきています。



✿ワレモコウ (バラ科)
生薬：地榆(チユ) 乾燥した根茎。葉が榆(ニレ)の葉に似ていることから地榆といわれたようです。



✿ゲンノショウコ(現証拠)
(フウロソウ科)
ドクダミ、センブリと共に日本では古くから三大民間薬の一つとして服用されています。



✿フジバカマ (藤袴)
(キク科)
生薬：佩欄 (ハイラン)
秋の七草のひとつ白いふわふわした美しい花が咲きました。



✿オミナエシ (女郎花)
(オミナエシ科) 生薬：敗醬(ハイショウ) 秋の七草のひとつ。黄色い小さな花のが特徴。花期が長いので、花の少ないこの季節を彩ります。



❖金時ショウガ (ショウガ科)
生薬：生姜 (ショウキョウ)。根茎。
生姜は漢方に繁用される重要な生薬です。
葛根湯にも配合され、身体を温める効果は
抜群で「ショウガ湯」として、一般的にも
愛用されます。金時種は中でも辛み成
分が多く薬用にも使用されています。



❖キクイモ (キク科)
天然のインシュリンとも呼ばれ、糖
尿病などの生活習慣病予防などによ
いとされるスーパーフードで注目の
健康野菜。上部が枯れたら根塊を収
穫し、キクイモチップやきんぴらに
して食すようです。収穫出来たら試
してみたいと思います。

【開花後に実や種をつけた植物】

❖ボタン (ボタン科)
生薬：牡丹皮 (ボタンピ) 根皮
中国の国花。種子繁殖を嫌い、株分けで育
つため牡(オス)の名前が付いたとされます。
本来は赤い花(丹)が原種で、
牡(オス)丹(赤い)の語源です。漢方では婦人
病の聖薬の一つとされます。



❖インドジャボク (キョウチクトウ科)
インドの伝統医学のアーユルヴェーダで用い
られます。根の形がヘビのようにならな
うねって生えるため印度蛇木という名が
ついたとされます。医薬品シセルピンや
アジマリンの原料で重要な薬用植物の
一つです。



❖ムラサキ (ムラサキ科)

生薬：紫根 (シコン)。春には可憐で小さな花がたくさん咲きました。移植を嫌うのであちらこちらに咲きました。枝についた白い種もきれいです。根は赤紫色を呈し、漢方薬の紫雲膏にも配合され、腫れ止めの効能があります。



❖ハイビスカス・ローゼル (アオイ科)

ハイビスカスの中のローゼル種は程よい酸味と鮮やかな赤みの果実をつけるのが特徴です。果皮を乾燥してハーブティーにします。今年は、夏から秋にかけて沢山の実がなりました。



❖サネブトナツメ (実太大棗) (クロウメモドキ科)

生薬：酸棗仁 (サンソウニン)。果実。大棗 (ナツメ) の原種で、トゲが多く果実も小さいので種子を薬用に使用します。不眠やストレス緩和に効果があります。



❖サンザシ (大実山査子) (バラ科)

生薬：山査子 (サンザシ)。果実。酸味が強く、西洋のローズヒップ近縁種です。バラの原種ともいわれ、漢方では消化不良に効果があるといわれます。

